

MABI PAPERは#おかやま JKnoteの高校生目線で被災地や支援者の声を届ける新聞です。

MABI PAPER

TAKE FREE
発行#おかやまJKnote
〒700-0026岡山県岡山市北区
奉還町3-1-30 SGSG
info@jknote.work
www.jknote.work

倉敷市に現場の声は届いているのか？

学校再開に伴い、縮小された避難所。なお、避難所生活をしている方への物資が満足に届かないという声を取材しました。
(片岡優奈)

避難所生活を送ると被災者への支援として特に必要なのは、被災者の心のケアと物資の提供と言えらるだろう。しかし、被災者への支援を率先して行わなければならない倉敷市役所の対応の悪さが露呈している。倉敷市の小学校に設置された各避難所は学校の始業に伴って縮小されている。そこで問題となっているのは、今まで避難所で行っていた物資の提供を今後どうするかである。倉敷市役所は災害当初から、NPOや個人からの物資の受け入れを行って行かなかった。だが実際に避難所に行ってみると、入口の近くに売店のようなものがあり、一見物資が充実しているように思える。しかしその物資のほとんどは倉敷市から届けられたものではなくNPOなどのボランティア団体や個人が直接避難所へ届けたものだ。どうしてそのようなことが起

この日（8月30日取材）も物資の運び入れをしていた50代と40代の女性にお話を伺った。「倉敷市の配布しているのは、1日三食のご飯と最低限の物資だけです。埃が目痛いから目が欲しくて湿布が欲しくてあれは普通に使える日用品がない状況下でそのような物資の支援は行われていませんでした。」「ボランティアやNPO法人、現場の職員が市役所へこのように申し出て受け入れてもらえません。私たちのような個人やNPO法人が市役所と被災者の間に隙を埋める活動をしているんです。」

と話してくれた。市の上層部の方が、実際に避難所へ視察に来ることも今までであった。しかし、60代男性の話によると「上層部だけを見て、本当に被災者を考える思いはない」様子だったという。市の上層部が見た避難所生活は1日三食のご飯が提供され、寝る場所がありお風呂に入ることができ、入口には物資が溢れている快適な避難所を過ごす被災者の様子だった。しかし、避難所生活を少しでも過ごすやすいものをするため奮闘している人の多くはNPO・個人のボランティアの力だ。避難所

の縮小と同時に、被災者たちへ必要な物資を届けていた被災者への提供が終了になる。住宅の引越しや仮設住宅への転居など日常生活を送る物資が



今後の避難所の支援物資の行方は？

あるがどれも不足している状況だ。被災者への物資の支援は、今後どこで行われるのか。支援したいと考えているNPOなどボランティア団体や個人が物資提供を行う場合は提供されるのか。場所の提供、物資の提供、不満の声は倉敷市に届いているのか。今後の市の対応に注目したい。

日の丸タクシー新たな挑戦

～地域再生の起爆剤へ～

8月28日、真備町に本社を置く日の丸タクシーが新たな挑戦へと動き出した。それは、ラッピングカーを利用した新しい真備町の観光の方法だ。日の丸タクシーは、7月豪雨災害でバス11台が水没、タクシーも半数以上が水没し使用できない状態になるなどの甚大な被害を受けた。災害から約2ヶ月、現在は4台のバスを動かせるまで調整し各地のタクシー会社から寄付されたタクシーを使い真備町内を循環するバスの業務を行なっている。この日、日の丸タクシー社長平井啓

之さんの元に真備よろずチーム研究所ITチームのリーダーザブローさん、こと松山将三郎さんと水田三和心さんが訪れた。二人は観光振興の方法としていくつかプランを示し、その原資をクラウドファンディングで集める計画を提案した。自社のタクシーとバスへラッピングを施すということで、平井社長は「真備の方が利用するバスやタクシーですから、その方達にも観光客にも親しみを持ってもらえるようなデザインにしてほしい。」と語った。新たな挑戦を始める日の丸タクシー、

地域再生の大きな起爆剤となるのか。今後の動向に注目している。



平井社長 (左) 片岡 (中央) 水田さん (右)

イベント 9月30日(日) 11時～17時

第3回 マービー助け合いチャリティーライブ

たまテレホール (倉敷市玉島阿賀崎1-2-31)

出演 ザ・サーフ、グラフィティーズ、ようすいさん、実希、リトルピーチ、マジックシンガーズ、藤井義満add 9、U-Ballades、UpSide-Down

※出演者による募金活動有 必要とされる物資や義援金にあてられます。

★県外に旅行に行ってみたい。(小6女兒)

★プールや海、バーベキューなどみんなで遊びたい。(小4女兒)

★運動場が狭くなってしまった、もっとのびのび遊びたい。転校する子もたくさんいたから、もっとみんなに会いたいし遊びたい。(小6女兒)

この夏休み、普段ならできていたことができない時期が長く続いた。夏休みが明け新学期が始まった今、夏休み前とガラリと変わった生活環境、学び舎、クラスメイトに動揺を隠せない子供達が多いことだろう。新たな生活がスタートするこの季節だからこそ、子供達の精神面、身体面でのケアが必要だ。

六徳小学生のやってみたこと

ボランティアセンター



全国1万4000人の登録者がいて、職員が15~20人居る。

・ボランティアの受け入れなどを行っている。

〈通常業務〉

- ・東日本大震災の支援をしている。
- ・災害ボランティアセンターの研修をしている。
- ・緊急災害対応をしている。

◎海外からボランティアに来ている人もいる(ミャンマーや、ブラジルから)みんなでご飯を作ったりしている。

MABI PAPERは9月より毎月2回発行です

取材を担当する高校生の学校がはじまるため

第6号 9月22日(土)

第7号 10月6日(土)

★掲載希望・配布協力・協賛協力のお問合せ

メール→info@jknote.work

★MABI PAPER特設サイト

https://peraichi.com/landing_pages/view/mabipaper

